

令和2年度 第59回

農林水産祭



— 2021.3 —

公益財団法人 日本農林漁業振興会

第59回 農林水産祭式典

令和2年度（第59回）農林水産祭式典は、令和2年11月23日（月）に明治神宮会館において、各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者、農林水産祭参加行事において農林水産大臣賞を受賞した優秀農林水産業者等約400名の方々が参加して行われました。

式典は、野上浩太郎農林水産大臣の主催者挨拶の後、林産部門天皇杯受賞者の有限会社上原樹苗の上原和直氏が収穫感謝の言葉を述べられ、次いで選賞審査報告と表彰状等の授与、ご来賓の祝辞、祝電の披露等が行われ、最後に日本農林漁業振興会の中家徹理事長の閉会の挨拶により閉幕しました。

農林水産大臣挨拶（要旨）

農林水産祭式典を挙げるに当たり、主催者を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい折、多くの皆様方に御出席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

本年は、新型コロナウイルスの影響により、我が国の経済・社会に大きな影響が生じております。また、七月の豪雨災害などの一連の災害により、農林水産業にも多大な被害が発生しました。農林水産省といたしましては、被災された農林漁業者の皆様方が一日も早く経営再建できるよう、全力で取り組んでまいります。

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため、昭和三十七年から国民的な祭典として実施しており、今年で五十九回目となります。この間、農林水産祭を支えていただいている関係者の皆様に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

本日、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞を受賞される皆様に対し、心からお慶び申し上げます。

農林水産業は、関連産業である食品産業と共に国民に食料を安定供給し、地域の経済やコミュニティを支え、その営みを通じて、国土の保全などの役割を果たしている、まさに「国の基（もとい）」であり、農林水産業を発展させるとともに、日本の原風景である美しく豊かな農山漁村を守っていくことが重要であると考えております。

天皇杯等三賞の受賞者をはじめ、全国の農林水産大臣賞の受賞者の取組は、地域の農林水産業、農山漁村の発展に大きく貢献してこられました。皆様方におかれましては、本日を契機に後進の方々の模範となってさらに御活躍いただくことを御期待申し上げます。

結びに、本日御出席の皆様方並びに全国の農林水産業に携わる方々の今後ますますの御発展と御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



野上 浩太郎 農林水産大臣

《収穫感謝の言葉》



林産部門天皇杯受賞
上原 和直 氏

選賞審査報告 難波成任農林水産祭中央審査委員会会長

審査報告を申し上げます。

農林水産祭中央審査委員会では、昨年7月から本年6月までの1年間に全国各地で開催されました273の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞されました465点を対象として書類審査及び現地調査を行いました。その結果、7部門において、それぞれ天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の三賞の受賞者を決定いたしました。

また、「女性の活躍」について、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の二賞を選考いたしました。

受賞者の方々の業績のうち、私からは天皇杯受賞者の方々について特筆すべき点をご報告申し上げます。

農産・蚕糸部門の静岡県の掛川中央茶業株式会社研究部会は、販売会社と連携して生産から加工・販売までの一貫体制を構築し、高品質な茶生産を実践しており、ASIAGAP認証の取得や輸出に対応した防除体系の導入、研究機関と連携した新技術の導入、碾茶・紅茶の生産などの先駆的な取組を行うとともに、茶園の管理受託による農地の保全や長期にわたる児童への体験学習の実施により地域に貢献するなど、地域のモデルとなっています。

園芸部門の埼玉県の山下ご夫妻は、自動かん水装置の導入などによる作業の効率化やスマートフォンを用いた栽培管理の共有化などにより、年間約60品目の花壇苗などの周年出荷体系を確立するとともに、値頃感のある「ミックス植え」の商品提案などにより、売上高を拡大しています。また、江戸時代からの落ち葉堆肥農法を継承し、平地林の維持に必要な「落葉掃き」に従業員総出で行うなど地域社会にも貢献しています。

畜産部門の長崎県の松崎ご夫妻は、青空スタンションを活用し、牛舎を最小限として施設への投資を抑えるとともに、耕作放棄地の活用により放牧と飼料畑面積を拡大、粗飼料自給率100%を達成し、省力・低コスト生産を実現しています。スマートフォンと監視カメラを連動させ、分娩事故を無くすなど優れた飼養管理技術と積極的な育種改良により能力の高い繁殖牛群を作出するなど、離島の不利を克服し、肉用牛繁殖農家の模範事例となるものです。

林産部門の福島県の有限会社上原樹苗は、東日本大震災により大きな被害を受けながらも事業を継続し、コンテナ苗生産や作業の機械化などによる効率化を進めました。針葉樹だけでなく広葉樹を合わせ常時100種類以上の樹種を生産する体制を築き、北海道から沖縄まで各地の多様な需要に応えています。また、地域の実情に応じた植栽樹種の提案など森林づくりに関する情報発信を行っており、今後の苗木ビジネスの担い手として更なる活躍が期待されます。

水産部門の広島県の前潟干潟研究会は、古くから各個人に割り当てられた区割り漁場において、「あさり」の資源管理に取り組んできました。近年では、研究機関の研究成果を応用して、簡易な稚貝の採苗手法を開発し、地場産の稚貝回収量を増大させるとともに、区割り漁場や手掘り収穫などの生産手法により、地理的表示保護制度への登録を受けるなど「大野あさり」の高付加価値化を図っています。資源管理の重要性が増す中で、他地域にも多くの示唆を与える取組として高く評価できます。

多角化経営部門の滋賀県の古株牧場は、当初、水稻と酪農の経営でしたが、平成9年からジェラート、チーズの加工など6次産業化の取組を始め、直売店や有名ホテルで販売しブランド化を図っています。平成17年度から肉用牛肥育に取り組み、乳製品加工販売の事業拡大と併せて経営の多角化を進めています。これらの取組は、地域の雇用を創出するとともに、6次産業化の取組が県内に波及するなど、経営多角化のモデルとなるものです。

むらづくり部門の新潟県の高根フロンティアクラブは、小学校の廃校や農業後継者の減少など集落の存続への危機感から平成8年に設立され、空き家の整備による子供、高齢者など様々な人が集える「新しい寄り合いづくり」や首都圏の大学生や企業と連携した植林活動の実施、廃校を利用した農家レストランや「どぶろく」の生産など6次産業化にも取り組んでいます。高根に魅せられた若者など他地域からの移住にも成功しており、地域住民による自発的な活動はむらづくりのモデル事例となる得るものです。

内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞につきましても、「女性の活躍」による受賞を含め、それぞれ素晴らしい皆様方が受賞されました。

本日、受賞されました方々に心からお祝いを申し上げますとともに、こうした方々の先進的な取組みが全国に普及し、日本の農林水産業がさらに活性化することを祈念いたしまして、審査報告といたします。



中央審査委員会
会長 難波 成任 氏

天皇杯等三賞の表彰

天皇杯は、7部門の受賞者に対し野上浩太郎農林水産大臣から賞状が、林良博（公財）日本農林漁業振興会会長から天皇杯が授与されました。引き続き、内閣総理大臣賞は、野上農林水産大臣から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与され、日本農林漁業振興会会長賞は、林会長から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与されました。



天皇杯受賞者



天皇杯の授与



内閣総理大臣賞受賞者



日本農林漁業振興会会長賞受賞者

ご来賓の祝辞、祝電等

天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の授与後に、内閣総理大臣菅義偉様からのメッセージと衆議院議長大島理森様、参議院議長山東昭子様からのご祝電の披露がありました。また、多数の祝電のご紹介をいたしました。

大臣と三賞受賞者等との懇談会

例年行われる式典終了後の農林水産大臣等と三賞受賞者の皆様との懇談会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となりました。

(例年の参加者：農林水産大臣ほか農林水産省幹部、日本農林漁業振興会会長、理事長ほか同役員、中央審査委員会会長ほか各分科会主査等)

天皇杯等三賞の選賞

令和2年度の天皇杯等三賞（天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞）の選賞審査は、7月1日に開催された農林水産祭中央審査委員会第1回総会を皮切りに、経営（兼多角化経営）、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、むらづくりの各分科会において行われました。令和元年7月から令和2年6月にかけて全国で開催された273の農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞された優秀農林水産業者465人（団体、夫婦連名を含む）を対象に、部門毎に書類審査と現地調査による厳正な審査が行われ、10月6日の中央審査委員会第2回総会において決定されるとともに、同7日農林水産省 Web サイトで公表されました。



農林水産祭中央審査委員会第2回総会

天皇杯等三賞選賞の結果

	部門	出品財	受賞者		表彰行事
			住所	氏名等	
天皇杯	農産・蚕糸	産物 (茶)	静岡県掛川市	農業生産法人掛川中央茶業株式会社 研究部会 (代表 佐々木 余志彦)	第56回静岡県茶品評会
	園芸	経営 (花壇苗)	埼玉県川越市	山下 徳弥* 山下 笑子*	第29回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール
	畜産	経営 (肉用牛繁殖)	長崎県 北松浦郡小値賀町	松崎 秀利* 松崎 弘子*	第49回日本農業賞
	林産	技術・ほ場 (苗ほ)	福島県南相馬市	有限会社上原樹苗 (代表 上原 和直)	令和元年度全国山林苗畑品評会
	水産	技術・ほ場 (資源管理・資源増殖)	広島県廿日市市	前潟干潟研究会 (代表 下戸成 治美)	第25回全国青年・女性漁業者交流大会
	多角化経営	経営 (6次産業化)	滋賀県 蒲生郡竜王町	有限会社古株牧場 (代表 古株 治明)	令和元年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり活動	新潟県村上市	高根フロンティアクラブ (代表 鈴木 信之)	第42回豊かなむらづくり全国表彰事業
内閣総理大臣賞	農産・蚕糸	経営 (麦類)	愛知県西尾市	内田 修二* 内田 聖子*	令和元年度全国麦作共励会
	園芸	経営 (担い手づくり)	長野県 北佐久郡御代田町	有限会社トッピーバー (代表 嶋崎 秀樹)	令和元年度全国優良経営体表彰
	畜産	経営 (酪農)	静岡県富士宮市	佐々木 剛* 佐々木 千尋*	第37回全農酪農経営体験発表会
	林産	産物 (きのこ類)	大分県大分市	河合 清* 河合 くに*	第67回全国乾椎茸品評会
	水産	産物 (水産加工品)	宮城県石巻市	末永海産株式会社 (代表 末永 寛太)	第30回全国水産加工品総合品質審査会
	多角化経営	経営 (販売革新)	福岡県八女市	農事組合法人八女美緑園製茶 (代表 江島 一信)	令和元年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり活動	宮城県 刈田郡七ヶ宿町	湯原集落協定 (代表 山田 益広)	第42回豊かなむらづくり全国表彰事業
	多角化経営	女性の活躍	福岡県 三潞郡大木町	株式会社ビストロくるるん (代表 松藤 富士子)	第49回日本農業賞
日本農林漁業振興会会長賞	農産・蚕糸	女性の活躍 (水稲、そば、園芸)	福井県あわら市	長谷川 信枝* 長谷川 吉弘*	令和元年度農山漁村女性活躍表彰
	園芸	経営 (かんきつ)	愛媛県松山市	JA えひめ中央釣島支部 (代表 池本 雄吉)	第49回日本農業賞
	畜産	技術・ほ場 (放牧)	北海道 枝幸郡枝幸町	石田 幸也* 石田 美由紀*	第6回全国自給飼料生産コンクール
	林産	経営 (林業経営)	群馬県高崎市	磯村産業株式会社倉測事業所 (代表 磯村 欽三)	全国林業経営推奨行事
	水産	経営 (漁業経営改善)	鹿児島県 出水郡長島町	鴨川 一平	第25回全国青年・女性漁業者交流大会
	多角化経営	経営 (牛肉輸出)	宮崎県都城市	株式会社ミヤチク (代表 有馬 慎吾)	令和元年度輸出に取り組む優良事業者表彰
	むらづくり	むらづくり活動	奈良県五條市	農事組合法人ゆめ野山 (代表 松本 正之)	第42回豊かなむらづくり全国表彰事業
	園芸	女性の活躍	静岡県御前崎市	栗本 めぐみ	令和元年度農山漁村女性活躍表彰

(注) 氏名等の欄に*を付したのは、夫婦連名で表彰するもの。

優秀農林水産業者に係るシンポジウム

農林水産祭の一環として、天皇杯等三賞受賞者の業績を広く普及することを目的として、東京都内及び地方において、シンポジウムを開催しています。

都 内 開 催

【テーマ：経営理念「笑顔創造」がつくりだす「ユニバーサル農業」】（第25回）

令和2年12月15日（火）に東京都港区の石垣記念ホール（三会堂ビル）において、令和元年度多角化経営部門で天皇杯を受賞された「京丸園株式会社」の業績を取り上げて、シンポジウムを開催しました。農林水産省大臣官房の菱沼義久技術総括審議官のご挨拶のあと、農林水産祭中央審査委員会経営分科会の伊藤房雄主査による選賞審査報告、京丸園株式会社の鈴木厚志氏



業績発表の様子

による業績発表があり、引き続き、伊藤主査の進行により、業績発表者に加え、東京農業大学（前中央審査委員会経営分科会委員）の原珠里教授、JA 共済総合研究所の濱田健司主席研究員、静岡県西部農林事務所の村松嘉和技監兼企画経営課長による意見交換や参加者との質疑応答が行われました。シンポジウムは、行政関係者、農林関係団体、関連企業等など約50名の参加の下、実施されました。



鈴木 厚志 氏



伊藤 房雄 氏

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」(第25回) 出席者

R2.12.15 (敬称略)

区 分	氏 名	所 属・職 名 等
業績発表者	鈴木 厚志	令和元年農林水産祭多角化経営部門天皇杯受賞者 京丸園株式会社 代表取締役
コーディネーター 及び選賞審査 報告	伊藤 房雄	農林水産祭中央審査委員会経営分科会 主査 (東北大学大学院教授)
コメンテーター	濱田 健司	一般社団法人 JA 共済総合研究所 調査研究部 主席研究員
コメンテーター	村松 嘉和	静岡県西部農林事務所農業振興部 技監兼企画経営課長
コメンテーター	原 珠里	東京農業大学国際食料情報学部 教授 (前農林水産祭中央審査委員会経営分科会 委員)
挨 拶	菱沼 義久	農林水産省大臣官房技術総括審議官
司会・進行	小栗 邦夫	(公財) 日本農林漁業振興会 常務理事



パネルディスカッションの様子

各地をオンラインで結んでの開催

【テーマ：若者の目もキラキラ、世代を超えて自主的に取り組むむらづくり】（第26回）

令和3年2月28日（日）に、令和2年度むらづくり部門で天皇杯を受賞された高根フロンティアクラブの業績に関するシンポジウムを開催しました。

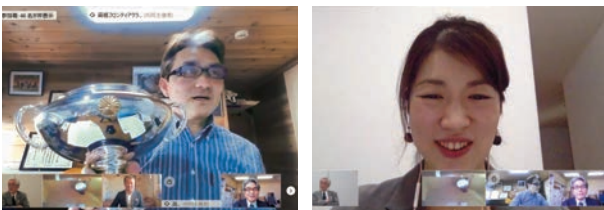
北陸農政局の岩濱洋海局長、新潟県農林水産部の山田治之部長、村上市の高橋邦芳市長からご挨拶を頂いたあと、中央審査委員会むらづくり分科会の福興徳文主査による選賞審査報告、高根フロンティアクラブの鈴木信之会長と能登谷愛貴事務局員による業績発表に引き続き、福興主査の進行により、お二人の業績発表者に加え、コメンテーターとしてNHK エグゼクティブアナウンサーの畠山智之氏（中央審査委員会委員）、新潟大学の寺尾仁准教授、高橋邦芳村上市長を加えて、パネルディスカッションが行われました。

シンポジウムには、むらづくり関係の団体、行政関係者など60名を超える皆様にご参加いただきました。今回は、農林水産祭シンポジウムでは、初めてオンラインでの開催となりましたが、全国各地から参加頂くことができました。

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（第26回）出席者
R3.2.28（敬称略）

区分	氏名	所属・職名等
業績発表者	鈴木 信之	令和2年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞 高根フロンティアクラブ 会長
	能登谷愛貴	// 事務局員
コーディネーター及び選賞審査報告	福興 徳文	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査 (茨城大学農学部教授)
コメンテーター	畠山 智之	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員 (NHK放送研修センター日本語センター エグゼクティブアナウンサー)
コメンテーター	寺尾 仁	新潟大学工学部准教授
コメンテーター	高橋 邦芳	村上市長
挨拶	岩濱 洋海	農林水産省北陸農政局長
	山田 治之	新潟県農林水産部長
	高橋 邦芳	村上市長
司会・進行	小栗 邦夫	(公財)日本農林漁業振興会 常務理事

業績発表者



鈴木 信之 氏と天皇杯

能登谷 愛貴 氏

オンラインでの業績発表の様子



選賞審査報告及び
コーディネーター



福興 徳文 主査



畠山 智之 氏



寺尾 仁 氏



高橋 邦芳 氏

天皇皇后両陛下への拝謁と業績説明（延期）

農林水産祭参加表彰行事において、7部門それぞれで最も優秀な農林水産業者として選定され、最高の栄誉に輝いた天皇杯受賞者は、例年、皇居宮殿において天皇皇后両陛下に拝謁し、お礼言上と業績説明を行います。令和2年度の受賞者については、新型コロナウイルスの感染拡大により首都圏等に緊急事態宣言が発令されたため、年度内の実施を見送ることになりました。

以下は、令和元年度の天皇皇后両陛下への拝謁及び業績説明の様子を紹介します。



天皇皇后両陛下への天皇杯受賞者のお礼言上

天皇皇后両陛下への業績説明

拝謁に引き続き、難波成任中央審査委員会会長及び菱沼義久農林水産省大臣官房技術総括審議官のご先導により、両陛下は、むらづくり部門、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門の順に、受賞者からそれぞれの業績について説明を受けられました。

各天皇杯受賞者のご説明に対して、両陛下から、展示物に関する技術や経営、生産状況等について多岐にわたるご下問があり、短い時間の中でそれぞれ温かい励ましのお言葉をいただきました。



農産・蚕糸部門の業績説明



園芸部門の業績説明

天皇杯受賞者の皇居特別参観・記念撮影〈令和元年度〉

拜謁・業績説明に先立ち、宮内庁担当者の案内により、皇居特別参観が行われ、宮殿、中庭、二重橋、道灌堀、賢所、生物学研究所（水田）、紅葉山御養蚕所等を参観しました。また、皇居宮殿東庭松の塔前において、天皇杯受賞者を囲んで記念撮影が行われました。



天皇杯受賞者を囲んで記念撮影

天皇杯と農林水産祭

1. 天皇杯は、スポーツ及び農林水産業の振興のため、特に業績のあった最優秀者に対して授与されるものであり、現在、30個の天皇杯が宮内庁を通じて所管団体に下賜されています。

2. 昭和37年11月、財団法人日本農林漁業振興会が農林省と共催する農業祭参加表彰行事において、部門別の最優秀者（農産、園芸、畜産、蚕糸、林産、水産）として選ばれた者に対して授与するものとして、6個の天皇杯が宮内庁を通じて、財団法人日本農林漁業振興会に下賜されました。

その後、昭和54年度から、農林水産祭参加表彰行事に新たに加えられたむらづくり部門の特に優秀なものに授与されるものとして、天皇杯が1個下賜されました。

なお、部門名については、現在、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの7部門となっています。

3. 天皇杯は毎年農林水産関係団体等が「農林水産祭参加行事」として開催する約300の表彰行事において農林水産大臣賞（約500点）を受賞した者の中から中央審査委員会の厳正な審査を経て選定されます。



令和2年度(第59回)農林水産祭「実りのフェスティバル」(中止)

農林水産祭「実りのフェスティバル」は、例年11月上中旬頃に秋篠宮皇嗣同妃殿下のご視察と多数の来場者のご参加の下、盛大に開催して参りましたが、令和2年度(第59回)につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、やむを得ず、中止することと致しました。

なお、「福祉施設への農林水産物の贈呈」につきましては、開催中止に拘わらず一部の出展者様のご厚志により、東京善意銀行を通じて、引き続き、実施することができました。

令和2年度「福祉施設への農林水産物の贈呈」にご協力頂いた皆様

静岡県(静岡県椎茸商業協同組合)、愛知県、全国花き振興協議会(日本生花商協会、日本花き卸売市場協会、全国花卸協会、日本花き生産協会、日本インドアグリーン協会、JFTD)

以下は、令和元年度の「実りのフェスティバル」の様子を紹介したものです。

池袋サンシャインシティにおいて開催いたしました。初日の開場に先立ち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご来場され、加藤寛治農林水産副大臣をはじめとする関係者や各地のゆるキャラ、キャンペーンガール等がお出迎えしました。

令和元年度の7部門の天皇杯受賞者の業績を紹介するコーナーでは、写真パネルをご覧いただきながら、農林水産省の菱沼義久技術総括審議官から両殿下へ天皇杯受賞者の業績のご説明が行われ、引き続き、加藤農林水産副大臣、菱沼技術総括審議官、中家徹日本農林漁業振興会理事長ほかのご案内により、政府(農林水産省)特別展示、地域農林水産展(都道府県コーナー)、農林関係団体コーナーをご視察いただきました。

初日、2日目とも穏やかな天候に恵まれたことなどから、2日間で約41,000人と多くの皆様にご来場いただきました。



お出迎え



天皇杯コーナーご視察

政府(農林水産省)特別展示



両陛下ご即位記念コーナー



田んぼの水はどこからやってくる?



日本茶でおもてなし



海の恵みをいつまでも



棚田に恋

内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞の紹介

令和元年度農林水産祭天皇杯受賞者のパネル展示のほか、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の受賞者をパネルで展示紹介しました。



内閣総理大臣賞パネル



日本農林漁業振興会会長賞パネル

東日本大震災被災地復興支援コーナー

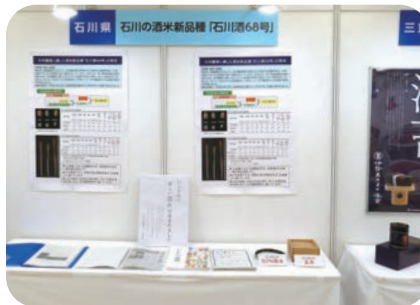
東日本大震災からの被災地の一日も早い復旧・復興を願い、会場内に被災地の農林水産物の展示、販売等を行うため、「東日本大震災被災地復興支援コーナー」を設置し、展示をしました。



(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会

都道府県技術・経営普及展

都道府県の独自性を有する農業技術や特徴ある農林水産物について、15道県の出展により実物、パネル等で展示紹介されました。



地域農林水産展（都道府県コーナー）

地域農林水産展（都道府県コーナー）では、全国各地の農林水産物の試食、試飲、販売が行われ、大勢の来場者で賑わいました。出展された33都道府県のうち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下には、茨城県、東京都、福井県、愛知県、山口県、愛媛県、長崎県、北海道、山梨県、福岡県の順に10都道府県の担当部長等から出展产品のご説明を行いました。



ご視察：愛知県

地域農林水産展（都道府県コーナー）

■ ご視察該当都道府県



北海道



茨城県



東京都



山梨県



福井県



山口県



愛媛県



福岡県



長崎県

■ ご視察該当以外の出展県



青森県



岩手県



秋田県



山形県



福島県



栃木県



群馬県



埼玉県



千葉県



長野県



静岡県



富山県



石川県



岐阜県



三重県



和歌山県



徳島県



香川県



佐賀県



熊本県



大分県



宮崎県

会場風景



鹿児島県



農林水産関係団体コーナー

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、農林水産関係団体コーナー12団体のうち、「全国い生産団体連合会」並びに「全国農業協同組合中央会（JA広場）」をご視察されました。

また、来場者が参加できる体験コーナーやクイズ、試食・試飲が楽しめるコーナーなど各種の展示が行われ、賑わいました。



全国農業協同組合中央会



全国い生産団体連合会



全国食肉生活衛生同業組合連合会



(公財) 中央果実協会



(一社) 日本鯉節協会



(公財) 日本食肉消費総合センター



(一社) 日本畜産副産物協会



(公財) 日本特産農産物協会



(一社) 日本パインアップル缶詰協会



(一社) 日本ハンバーグ・ハンバーガー協会



(独) 農畜産業振興機構

体験、ふれあい

体験乗馬



ジャンボうさぎ



ゆるキャラ



農林水産物の贈呈（令和元年度）

◆贈呈ご協力道県・団体◆

農林水産祭を祝い、実りの喜びを分かち合うとの趣旨で、下記の8道県・2団体から提供された物品はフェスティバル終了後、東京善意銀行を通じて、福祉施設に贈呈されました。



北海道（JAグループ北海道（北海道中央会・北海道信連・ホクレン・北海道厚生連・共済連北海道）、秋田県（全農秋田県本部）、山形県、群馬県（坂井養蜂場、中村養蜂園、針塚農産、全農群馬県本部）、長野県（おいしい信州フードキャンペーン推進委員会）、静岡県（南駿茶業青年団、静岡県温室農業協同組合、静岡県椎茸産業振興協議会）、愛知県、大分県（全農大分県本部、大分県椎茸振興協議会、豊後別府湾ちりめん協議会）、JA全中、全国花き振興協議会（日本生花商協会、日本花き卸売市場協会、全国花卸協会、日本花き生産協会、日本インドアグリーン協会、JFTD）（順不同）



農林水産祭事業の概要

目的は

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と（公財）日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施しています。

事業は

優秀農林水産業者に対して下賜された天皇杯等の授与と収穫を感謝する「農林水産祭式典」（例年11月23日に開催）と優秀農林水産業者の技術・経営の紹介、農林水産物の展示・即売等を中心とする「実りのフェスティバル」の2本柱で行われています。

実施体制は

農林水産祭を推進するための農林水産祭実行委員会、農林水産大臣賞の受賞者の中から特に優秀なものを天皇杯等三賞受賞者として選定する農林水産祭中央審査委員会等、多くの関係者の協力の下で実施しています。

財源は

国の補助金のほか、都道府県の負担金、農林水産関係団体の寄付金、経団連関係団体・企業の寄付金等、多くの皆様のご協力をいただいています。

close-up

農林水産祭(通巻 第133号)

本誌に掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。
令和3年度の農林水産祭スケジュールにつきましては、
本会ホームページ等でお知らせする予定です。

発行所 公益財団法人 日本農林漁業振興会

令和3年3月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7F
TEL 03 (6441) 0791(代) FAX 03 (6441) 0792
URL <http://www.affskk.jp>